



経緯と決意

教育長 森 尚生

修学旅行引率中のディズニーシー。早めの夕食を済ませてスマホを見ると、見知らぬ番号から着信が入っていました。かけ直すと、電話の主は谷川市長でした。

市長選が終わった2日後、共通の知人を通して谷川市長に初めてお会いしました。弘前の教育について語り合う中で教育長就任の打診を受けましたが、「他にも候補者がいる」と聞いていたので、一中に赴任したばかりの私が選ばれることはないだろうと思い、その後はすっかり忘れていました。

修学旅行中に受けた正式な就任依頼は、まるでアトラクションの急降下のような衝撃でした。夢の国から一気に現実へ引き戻され、人生の大きな選択を迫られることになります。

一中をわずか1か月で去る決断をしました。しかし、決断した後も本当にこれでいいのかと何度も自問自答しました。生徒たちとあいさつを交わし、授業を見て回り、先生方の熱心な姿に接していると、こんなにもやりがいのある仕事を手放してよいのだろうかという思いが込み上げてきます。

しかも、この決断は自分一人の問題ではありません。私が動けば、多くの方々の人生や仕事にも影響を及ぼします。中でも最も心苦しかったのは、一中の生徒たち、先生方、保護者の皆様、そして地域の皆様に対してです。着任したばかりの校長が、たった1か月で学校を去るのですから。

にもかかわらず、一中では私のために離任式を開いてくださいました。壇上で経緯や思いを率直に話すと、皆が真剣な表情で耳を傾けてくれました。花束をいただき、代表生徒から温かいメッセージをいただき、最後には私に向かって校歌を歌ってくれました。学校を去る際には職員の皆さんが玄関まで見送ってくれました。涙を見られないよう玄関の戸を閉めると外には生徒たちがいて「校長先生、頑張って！」と手を振ってくれました。その光景に胸がいっぱいになり、自宅までの帰り道、涙が止まりませんでした。

教育長に就いて1か月。今でもあの日のことを思い出すと胸が熱くなります。私には弘前の教育をより良いものにしなければならない理由があります。私を教育長に推してくださった方々の期待に応えるため、温かく送り出してくれた生徒たちや先生方の思いに報いるため、そして何より、弘前市の子どもたちの未来のためです。

学校現場には多くの課題があります。教育委員会にも改善すべき点があるでしょう。しかし、私は悲観していません。弘前には優れた校長先生方がいます。日々子どもたちのために力を尽くしている教職員がいます。そして教育委員会にも、教育を支えようと懸命に働く職員たちがいます。

それぞれが同じ方向を向き、力を結集することができれば、弘前の教育は必ず前へ進みます。私は教育長として学校と教育委員会をつなぎ、現場の声に耳を傾けながら、皆さんと共に弘前の教育をより良いものにしていきたいと考えています。

多くの人の願いと思いを胸に刻んだ今、迷いはありません。あの日流した涙を決意に変え、あとは全力を尽くすのみです。